

令和5年度
教育委員会の権限に属する事務の管理
及び執行状況についての点検及び評価
(令和4年度対象)

令和5年9月
荏田町教育委員会

目 次

1. はじめに	2
2. 点検及び評価の概要について	2
3. 教育委員会の活動状況について	4
4. 教育施策の推進状況について	
1－1 学校教育の充実	9
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	
2 I C T活用教育による学びの質の向上	
3 教育環境の整備	
4 学校・家庭・地域の連携と協働	
5 多様性を踏まえた教育の実践	
1－2 生涯学習の充実と文化の振興	23
1 学習機会の充実	
2 生涯スポーツの推進	
3 図書館サービスの充実	
4 文化財の保護と活用	
1－3 子ども・子育て支援の充実	35
1 放課後児童健全育成事業の充実	
5. 学識経験者意見	36
6. 資料等	
・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	44
・ 荻田町教育行政の仕組み、町の教育施設等	45

1. はじめに

このたび、荏田町教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に定めるところにより、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

この点検及び評価は、令和4年度における「教育委員会の活動状況」及び「教育施策の推進状況」に関して実施したものであり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、教育行政の推進状況に関する町民への説明責任を果たすことを目的としています。

荏田町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、町民に公表することとしています。

また、この点検及び評価の結果を今後の教育委員会活動や教育施策に十分に反映させることで、本町における教育施策が町民の皆様方の御理解の下に適切・円滑に推進できますよう、取組の強化を図ってまいります。

2. 点検及び評価の概要について

1 点検及び評価の対象

本報告書では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、「教育委員会の活動状況」及び「教育施策の推進状況」についての点検・評価の結果を掲載しています。

このうち「教育施策の推進状況」については、町の教育大綱である「第5次荏田町総合計画」（前期基本計画：令和3年～7年度）に掲げられた基本事業を推進するにあたって教育委員会が実施した令和4年度の事務事業や取組みを中心に点検・評価を行いました。

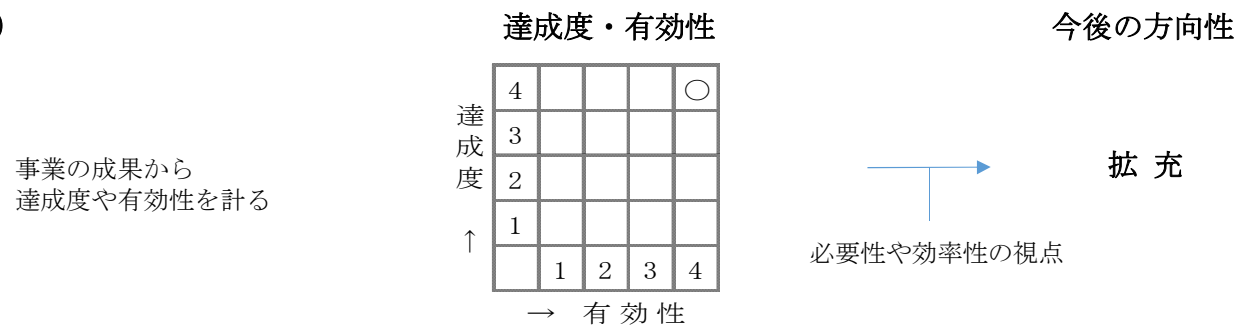
2 点検及び評価の方法並びに評価の観点

事業等の点検及び評価に際しては、事業の達成度や有効性、必要性や効率性といった観点からわかりやすく客観的な評価がなされるよう配慮しています。また、併せてこれらの点検及び評価を通じて、事業自体に関する今後の町の方向性を示すこととしています。

教育委員会の自己評価は、次の「評価基準」で評価しています。

達成度		有効性		今後の事業の方向性
計画どおり達成できたかどうか		施策や運営方針、総合計画の目標成果のために有効であったかどうか		達成度や有効性、必要性や効率性から今後の事業の方向性を総合的に判断
4	十分達成できた	4	非常に有効であった	拡 充
3	概ね達成できた	3	有効であった	継 続
2	やや不十分であった	2	あまり有効でなかった	改 善
1	不十分であった	1	有効でなかった	廃 止

(例)



3 教育に関して学識経験を有する者の知見の活用について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項が規定している「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については教育委員会が行った「教育施策の推進状況」の点検及び評価について、外部の教育関係者からの意見を求める方式を取っています。

なお、今回お願いした外部評価委員は次の3名の方々です。

- | | |
|--------------------|---------|
| ①元小学校校長 | 井上 宣江 氏 |
| ②西日本工業大学教授 | 田代 武博 氏 |
| ③九州工業大学高大接続・教育連携機構 | 橋内 政和 氏 |

3. 教育委員会の活動状況について

1 教育委員会の概要

(1) 教育委員会の位置付け

教育委員会は、町長から独立した行政委員会として位置付けられ、本町教育行政における重要事項や基本方針は、町長が議会の同意を得て任命した教育長及び4人の委員で組織する教育委員会において決定され、教育長の指揮の下に、教育委員会の事務局等が具体的な事務を執行しています。

(2) 教育委員会の所管事務

教育委員会は、学校教育、社会教育、学術、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として設置されています。

(3) 教育長及び委員の職務

教育長及び委員は、教育委員会会議に出席し教育行政の基本方針や重点施策について協議するほか、それらに関する重要事項等を審議しており、そのために教育現場の視察、意見・要望等聴取、教育関係の各種行事への出席、委員研修会への参加等を行っています。

こうした活動を通じて、教育における政治的中立性及び継続性・安定性を確保するとともに、広く町民の意向を反映した責任ある教育行政の実現を図っています。

(4) 教育長及び委員の構成

教育長及び委員は次の5人です。委員には保護者も含まれています。教育長の任期は3年、委員の任期は4年であり、再任されることができます。

職 名	氏 名	委員としての任期	職 業
教 育 長	井 上 三 津 子	R 3.11.15～R 6.11.14(2期目)	元小学校長
委 員 (教育長職務代理)	沖 永 圭 子	R 2. 4. 1～R 5.10. 3(1期目)	元小学校長
委 員	下 野 孝 次	R 2. 6. 1～R 6. 5.31(1期目)	会社員
委 員	土 屋 隆 之	R 3. 3.27～R 7. 3.26(1期目)	医 師
委 員	横 尾 直 人	R 4. 3.27～R 8. 3.26(1期目)	住 職

(令和5年3月31日現在)

2 令和4年度 活動実績

(1) 教育委員会の活動

項 目	活動状況・実施状況
1. 教育委員会会議の運営	苅田町教育委員会会議規則に基づき、定例会を9回開催し、教育行政施策や各協議事項に対する議論を行った。 また、臨時会を1回開催し、緊急を要する案件の審議を行った。
2. 教育委員会会議の公開	会議は原則公開としており、町掲示板への告示とホームページによる開催案内を行った。 会議結果については、ホームページでお知らせするとともに、議事録作成を行った。傍聴者及び議事録公開請求は無かった。
3. 教育委員会と首長との連携	総合教育会議を1回開催し、令和5年度に向けた苅田町の教育の課題と方向性について、町長と協議調整を図った。
4. 教育委員の自己研鑽	京築地区教育委員等研修会、福岡県教育委員研修会に参加し、全国研修会や県の研修会はオンラインでの開催で参加することができた。
5. 学校その他教育施設に対する支援等	新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事や社会教育行事の規模等の見直しが行われている中で、学校行事への参観訪問や、生涯学習施設への訪問等回数は伸びなかった。

○実 績

- ① 教育委員会会議の開催については、定例会のほかに臨時会を開催し活発な議論や意見交換を行いました。会議の議題については、事前に送付された会議資料等により議題への理解を深めた上で会議に臨んでおり、事務局提案の原案についても町民の視点に立った議論を行いました。議案を承認する場合も、施策の改善点や要望などを明確に示しました。
- ② 教育施策などの重要案件や条例・規則の制定、懸案事項等について、会議の議題として十分な議論を行いました。

○課 題

- ① 教育委員会会議のさらなる活性化を図るとともに、町民の意向を反映した教育行政を実現するために、関係者との意見交換に努めるなど、積極的な情報収集に努め、教育現場の実態把握等を継続して行う必要があります。
- ② 教育委員会活動が町民により一層理解され関心を持ってもらうために、今後も継続して積極的な情報発信等に努めていく必要があります。

○ 対 応

- ① 教育現場の実態把握や関係者との意見交換の拡充を図るため、視察や情報交換を充実するほか、関係団体が主催する協議会や研修会等に積極的に参加します。
- ② 教育委員会会議の結果については、原則としてホームページで掲載します。また、町民に分かりやすいホームページとなるよう構成や内容を整理し、速やかな情報更新を行い、今後も教育委員会活動について積極的に情報を発信します。

(2) 教育委員会が管理・執行した事務

項 目	内 容
1. 教育行政の運営に関する基本方針を定めること	・ 苅田町教育大綱に基づく令和4年度の小中学校教育施策、生涯学習重点事項についての方針決定を行った。 ・ 教育委員会年間予定事業について確認を行った。
2. 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること	法改正や教育施策の内容に応じて教育委員会規則等の整備を行い、円滑な教育行政推進を行った。 <u>改正分</u> ・ 苅田町児童生徒等就学援助規程の一部改正 ・ 苅田町放課後児童クラブ設置条例施行規則の一部改正 ・ 苅田町コンビニエンスストア等に係る収納事務の委託に関する規則の一部改正 <u>新規制定分</u> ・ 苅田町教育委員会に係る行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例施行規則 ・ 苅田町公共施設予約システムの利用に関する規程 ・ 子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

3. 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	法改正や教育施策の内容に応じた条例の改正や予算原案を決定し、円滑な教育行政の推進を行った。 ・令和4年6月議会定例会補正予算 ・財産(電子黒板・スタンドセット)の取得について ・苅田町体育施設の設置、管理及び運営に関する条例の一部改正 ・教育委員会事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書 ・令和4年9月議会定例会補正予算 ・工事請負契約(苅田小学校放課後児童クラブ増築工事)の締結について ・令和4年12月議会定例会補正予算 ・令和5年度当初予算 ・令和5年3月議会定例会補正予算 ・苅田町教育委員会職員の服務の宣誓に関する条例の一部改正 ・苅田町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正
4. 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること	・無し
5. 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること	・令和5年度の教職員人事に際し、学校長の具申を受け、勤務年数、実績、適正配置等を勘案し京築教育事務所に内申を行った。
6. 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員等の任命又は委嘱に関すること	各種委員会の委員等の候補者を承認した。 ・苅田町教育支援委員会委員 ・苅田町学校運営協議会委員 ・苅田町立学校給食委員会委員 ・苅田町学校給食センター運営委員会 ・苅田町図書館協議会委員 ・苅田町教育委員会外部評価委員会委員 ・苅田町スポーツ推進審議会委員

7. 教科用図書の採択に関する事	・採択はなかった。
8. 通学区域を設定し、又は変更すること	・設定や変更はなかった。
9. 文化財を指定し、又は指定を解除すること	・指定や解除はなかった。
10. 請願、陳情、訴訟及び異議の申し立てに関する事	・片島小学校区区長会と同校区期成会の連名で、町の「複式学級編制基準の見直し」等について陳情書が提出された。

4. 教育施策の進捗状況について

〔教育委員会が管理・執行を教育長に委任した事務〕

1-1 学校教育の充実（学校教育課）

目指す姿 子どもたちが確かな学力とたくましい心身を育み、学校で楽しく学んでいます。

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	(1) 学力の向上を目指す授業づくりの推進	① 小・中学校への町雇用教員・学習支援員の配置による授業サポート	学力向上のために、各学校1名、計8名の教育活動支援員を配置し、少人数による指導や専科指導等の指導体制を工夫した取組を行った。また、片島小学校には複式学級を解消するために2名の町雇用教員を配置した。与原小学校には感染症対策補助事業により、1名の学習支援員を配置した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	個に応じた指導の充実を目指す効果的な配置と考えられる。「拡充」の方向性も妥当と考える。更なる学力向上を目指してほしい。
		4				○																									
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
		② 小・中一貫した授業モデルの活用推進を図る学力向上推進プロジェクト会議の定期的開催	荏田中学校区では生徒指導の観点を取り入れた授業づくりを、新津中学校区ではインクルーシブ教育の観点を取り入れた授業づくりを行い、学力向上プロジェクト会議等で互いの成果を交流した。 プロジェクト会議では、主幹教諭等が各種学力調査の結果から町の課題を分析し、町全体で取り組むべき学力向上のための方策を協議することができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	学力向上推進プロジェクト会議の定期的開催が軌道に乗り、その取組の成果が見え始めて、有効性も達成度も最高の4と自己評価されている。この取組を三か年程継続されていることが成果につながっていると思う。
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	(2) 教師の資質・指導力の向上	① 学力検証改善サイクルの確立と学力向上プランの作成	全国学力・学習状況調査や県学力調査の結果分析を行い、学校訪問によるヒアリングを通して、学力向上プランの見直し・改善を計画的に行った。町の標準学力調査の実施時期を見直し(小学校1月⇒12月、中学校4月⇒1月に変更)、短期間でPDCAサイクルを回すことができるように改善した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	小学校・中学校の実態に則して町の標準学力調査の時期を見直すことによって、各学校のPDCAサイクルを効果的に回すことができるようになるばかりでなく、学力向上プラン見直しにも有効であったと考える。
		4																													
		3				○																									
		2																													
1																															
	1	2	3	4																											
② 指導力の向上を図る小中合同研修会の実施	町独自の研修会として、町内他校の授業を伴う校内研修への参加を奨励し、年間43回、延べ123名(研究発表会を除く)が参加した。この研修を通して自校の研究教科でない授業づくりについて学んだり、小中一貫の視点で授業づくりを考えたり、幅広い視野からの授業力の向上を図ることができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4			○		3					2					1						1	2	3	4	拡充	荏田町独自の研修体制であり、参加者が年々増えているので、気づきの共有等も期待できる優れた取り組みと考えられる。今後は研修内容を各学校で活かすための施策を検討してこれを推進してほしい。「拡充」の方向性は妥当である。		
4			○																												
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 特定教科研究指定校の継続と研究成果の公表	平成17年度より特色ある学校づくりのために研究領域の指定を行ってきた。それぞれの学校で研究の深まりが見られ、研究発表会や町教職員小中合同研修会を通して研究の成果を公表するとともに共有した。また、町内の白川小学校、新津中学校が受けている県指定の情報活用能力向上事業の公開授業、協議会に他校からも参加できる体制を整えることで、事業の横展開を図ることができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	「研究指定校」の意義を自覚し、前年度より一層、成果の「公表」や「共有」へ向けて前向きに取り組んでいることがわかった。研修成果が生かされたと評価している。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
④ キャリアステージに応じた研修の実施	若年教員の増加に対応して、校内OJTだけでなく、町指導主事やクラスター教員を活用した計画的な研修を行うことができた。また、ミドルリーダーを育成するために、ICT指導者研修や学力向上プロジェクト等を活用して、適切な指導・助言を行うことができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	キャリアステージに応じた計画的な研修は内容が充実しており、有効な取組であると考えるが、達成度を4にするため更なる工夫を期待する。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性	
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	(3) 生きる力の育成	① 規範教育の実施と道徳心の育成	各学校が「学校のきまり」等を作成し、学校だよりや入学説明会等の場で、児童生徒だけでなく、保護者への周知も行った。中学校では生徒会を中心に「学校のきまり」の見直しも進めた。道徳科の指導については、町の小中合同研修会で、道徳科を研究している白川小学校を中心に年間6回の授業公開、協議を行い、授業改善を進めることができた。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 有効性	継続	昨今、各地で進んでいる生徒主体の校則類の見直しを町内でも着手させているのは頼もしく感じられる。5年度以降も、方法を工夫しながらこの種の自立的・自律的取り組みの機会設定を主導していただきたい。道徳科と連携して、児童生徒が参加して「きまり」を考える機会を設けてほしい。
		② 体力向上のための一校一取組の推進と体力向上プランの活用	各学校が体力向上プランを作成し、新型コロナウイルス感染症のため実施できる教育活動の制限等もある中で、体育科の授業等で様々な工夫を行い、児童生徒の体力向上に努めた。特に、一校一取組として、体育の授業以外で行った小学校の縄跳びや持久走等の取組は、体力向上に有効であった。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 有効性	拡充	近年、コロナ禍もあり、子どもの体力が低下傾向にある中、これまで続けてきた「1校1取組」は子どもの体力向上に大いに寄与している。子どもたちがこの取組を通して次のステップに進めるような仕掛けをお願いしたい。
		③ 学校生活満足度調査(Q-U調査)を生かした学級経営の改善	全学校でQ-U調査を実施し、児童生徒の状況把握を行った。学級満足度は全国平均値を上回っており、学級指導の向上が見られた。本年度も1回の実施であったが、子どもの変容を確認するために年2回の実施が必要と考ええる。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 有効性	拡充	学級満足度が全国平均を上回っているのは安心・安全な学校づくりができている証であるが、それに安堵することなく学校・学級経営に努めてほしい。

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成	(4) 学校評価システムづくりと効果的運用	① 学校・保護者・地域を結ぶコミュニケーションツールとしての学校関係者評価の実施	教育委員会ヒアリングを各学校に対し、2回実施した。それを踏まえて、各学校で学校関係者評価を実施し、学校運営に生かすようにした。令和4年度よりコミュニティ・スクールとなった馬場小学校、与原小学校については、年間3回の学校運営協議会で、学校と保護者、地域の連携をより推進するための協議を行うことができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	地域とともにある学校への転換を図る有効な仕組みであるコミュニティ・スクールが2校に導入された。地域との協働(共同運営)となると課題が多々あるものとする。導入校での運営状況を検証して、整理・腑分けを確実に行っていただくようお願いしたい。
	4																														
	3				○																										
	2																														
1																															
	1	2	3	4																											
(5) 外国語教育の充実	① 小学校英語専科教員の配置	町内の小学校に2名の英語専科教員を配置し、小学校4校(兼務)で、英語専科教員による小学校高学年の外国語科、中学年の外国語活動の指導を行うことができた。町の小中合同研修会でも小学校英語専科教員が授業を公開し、中学校英語科教員も参加して、担任やALTと連携した指導方法について協議することができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	小学校英語専科教員を配置するだけでなく、その資質向上のための研修を中学校英語教員と連携して実施していることは、高い効果が期待でき、評価できると考える。今後も発展した形で継続してほしい。	
	4																														
	3				○																										
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 小学校1・2年生からの外国語活動とクラスルームイングリッシュの実施	町雇用のALTを活用して小学校1・2年から年間20時間程度の外国語活動を行った。ネイティブの発音に慣れることで英語に対する興味・関心が高まり、中学年の外国語活動にスムーズにつながることができた。また、各学校でイングリッシュデイを設定したり、英語の掲示物を作成したりして、日常的に英語に触れる環境を整えた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	日常的に外国語に触れる環境づくりは定着化し、一定の成果を収めている。有効性も達成度も4であり今後も継続してほしい。今後、児童が意識せずに外国語を受け入れられる環境づくりに向けた取組をさらに考えてほしい。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 外国語指導助手(ALT)の配置	令和2年度より4名の町雇用のALTを全小・中学校に派遣している。中学3年生については県費ALTの派遣事業を活用し、小学1年生から中学3年生までの全ての学年で、担任や教科担当と連携しながら、リスニング・スピーキング能力の向上のためにネイティブスピーカーとしてALTを活用することができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	義務制全学年を通したALT活用は、ネイティブ授業の本来の意味に照らして有意義なものと考えられる。児童生徒は毎年進級するわけであるから、今後、本事業を継続・拡充してその効果を見極めていくことが必要と考える。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
2 ICT活用教育による学びの質の向上	(1) ICT活用教育の推進	① ICT環境の整備	令和3年度より始めた電子黒板の設置が令和4年度に完了した。全ての普通教室と大部分の特別教室に設置され、日々の授業での活用が進んだ。オンライン学習のための環境も整備され、学校と家庭をつないだり、学校と学校、学校と企業をつないでの活用も進んだ。町のWi-Fiルーターの貸し出し体制も整備され、タブレット端末を持ち帰っての家庭学習の環境も整った。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	前年度に引き続き整備事業を段階的に着実にを行い、ICT環境を整備している。ICTを利用した様々な教育活動が実践されていることを大いに評価したい。
		4				○																									
		3																													
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② ICT推進組織(プロジェクトチーム)の構築と定例会議の実施	令和3年度より始めた一人一台端末を活用したICT教育推進のために、ICT活用教育推進プロジェクト会議を定期的に開催した。ロードマップに沿った全体方針の進捗状況や、ICTを効果的に活用した授業づくりについて交流・協議を行った。令和4年度より福岡県教育委員会の情報活用能力向上事業の指定を受けている白川小学校、新津中学校の取組を中心にICT化推進の横展開を図る場として機能した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	各学校にICT推進組織が構築され、ICT活用教育推進プロジェクト会議がICT教育推進の中心的役割を担い、ロードマップに沿ったICTを活用した授業づくりができるようになったと考える。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ ICT支援員の配置・サポート体制の確立	4校に1名、合計2名のICT支援員(外部委託)の配置を継続した。端末の使い方から授業での活用について、各学校でミニ研修などの日常的なサポートを行うことで、端末の利活用の推進に効果があった。今後も継続して研修や活用事例の提供を行うなど支援の充実を図る必要がある。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	ICT支援員を配置したサポート体制が確立し、端末そのものの利活用の推進に効果があったことは評価できる。有効性、達成度がともに4であることは妥当である。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
3 教育環境の整備	(1) 安心・安全な学校づくり	① 危機管理体制の強化	コロナ感染症の拡大に対応して、行橋市・みやこ町と連携して「新型コロナウイルスに関する学校や児童生徒のお休みのガイドライン」を随時見直し、登校の判断や休校・学級閉鎖の判断の基準、マスク着用の考え方等を示した。また、コロナ禍ではあったが、各学校が工夫して緊急時の避難訓練等を実施し、危機管理マニュアルの見直しを行った。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	昨年策定したガイドラインを運用・見直しすることによって実用的なガイドラインになり、幅広い教育活動が実施できるようになったと考える。
		4				○																									
		3																													
		2																													
1																															
	1	2	3	4																											
② 通学路安全確保のための点検実施と危険個所の改善	通学路交通安全プログラムの合同点検を地域連携の場として位置づけ、各校PTAや地域住民、関係機関と連携して危険個所の把握に努めることができた。また、この点検による危険個所資料を基に、警察、国県町道路管理者、町危機管理室、学校、PTAなどの関係者とともに実地確認し、必要な改善につなげることができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	「通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検だけでなく、水難や危険生物出没をも視野に入れた総合的な通学路の安全確保が日常的に図られている。引き続き取組をお願いしたい。		
4																															
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 学校の教育環境の向上のためのICT環境の整備	令和3年度より始めた電子黒板の設置が令和4年度に完了した。全ての普通教室と大部分の特別教室に設置され（全142台）、日々の授業での活用に繋がった。オンライン学習のための機器を充実整備し、学校と家庭、学校と学校、学校と企業などの通信の充実に努めた。一人一台端末の整備に伴いネット環境の整備を完了しているが、より安定的な運用をするべく、調査や設定環境の見直しを行うなど改善・向上の取り組みを行った。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	一人一台端末の整備に伴い発生するネット環境の不具合などを解決するために積極的に動いて、より安定的な運用に努めていることが伺える。この取組により充実した教育活動ができるようになり、一定の成果を収めている。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
④ 感染症対策環境の整備としてのスクールサポートスタッフの配置	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として各学校1名、計8名のスクールサポートスタッフを雇用し、校舎内の消毒作業などを行うなど安心して学べる環境を創出した。教職員の負担軽減にもつながった。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	スクールサポートスタッフのお陰で、児童生徒、教職員が安心して学べている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、継続の方向性が示されているので安心した。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
3 教育環境の整備	(2) 働き方改革の推進	① タイムカード導入による勤怠管理の実施	働き方改革の推進にあたって、全小・中学校で勤務時間管理ソフトを使用し、ICカードによる在校時間の見える化を行った。教育委員会で町全体及び学校ごとのデータを集計し、各学校長に配布することで在校時間が把握でき、意識化を図ることが出来た。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	タイムカードによる管理が定着したことが教員の仕事量削減・「働き方改革」に一定程度好影響をもたらしてきたことは評価できる。今後、《可視化したい校務》も視野に入れ、引き続き、実質的勤務時間をめぐる課題解消に努めていただきたい。
		4				○																									
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
		② 業務のデジタル化と情報共有の推進	教職員の働き方改革のために校務支援システムと一人一台端末の機能を生かした情報共有と活用を行った。各学校の共有サイトに作成したコンテンツを登録することで教育財産の共有化を図ったり、ミーティング機能を活かしたデジタル職員室の活用などで打ち合わせの時間削減を行ったりした。今後もさらに学校のペーパーレス化を進めていく必要がある。 今後は、町全体としての共有サイトを立ち上げる必要があると考える。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	働き方改革の推進として、校務支援システムによる教育財産の共有化、ミーティング機能での打合せなど勤務時間削減のための業務のデジタル化を推進しているのは大変効果があると思う。付随的に求められるデジタル情報の適正利用・管理についてもなお一層自覚的に取り組んでいただくようお願いしたい。
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
3 教育環境の整備	(3) 施設・設備の機能の向上	① 環境配慮型等の選択	教室蛍光灯取替の際にはLED蛍光灯に切り替えたり、コピー機や印刷機の入替えの際には、複合機を導入するなど、環境負荷を軽減し持続可能な社会を目指し整備を進めた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	空調設備が完備された本年、身近な蛍光灯のLED化などから堅実に目標達成を目指していることが感じ取られる。
	4				○																										
	3																														
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
	(4) 校舎修繕改修	① 老朽化した施設の整備改修	令和3年に策定した荇田町学校施設等個別施設計画に基づき、校舎等の長寿命化を図るため、順次、小中学校の大規模改修工事を行う。 令和4年度には一校目に着手する荇田中学校の改修基本設計が終了した。 現在は、令和6年度工事に向けて実施設計を策定中である。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	老朽化した施設の整備改修が着々と進められている。校舎の老朽化や児童数増による改修・改築工事を計画的に行っていることはとても評価できる。一方、工事期間中に在籍する児童生徒の安全・快適な学習環境の保障のための計画や作業も大変だと考えられる。その面にもどうか十分配慮いただきたい。
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
		② 校舎等の危険個所の整備・補修	学校からの要望に応じ、庶務担当の職員が迅速に対応し、教育活動に支障が出ないよう修理や改修を手配・完了した。 ・馬場小学校校舎・体育館渡り廊下修繕 ・南原小学校外壁修繕 ・南原小学校小荷物専用昇降機修繕 ・片島小学校トイレ便器取替修繕 ・荇田中学校火災受信機修繕 ・荇田中学校保健室外壁修繕 小規模の施設営繕に関しては、別に会計年度任用職員1名を雇用し、常時学校要望に迅速に対応している。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	校舎の修繕改修のために、施設担当職員や会計年度任用職員の雇用で学校の要望に迅速に対応されている。おかげで、学校は教育活動を円滑に進めることができる。高く評価したい。
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性	
4 学校・家庭・地域の連携と協働	(1) 家庭、地域の教育力を高める取組	① 「家庭学習のすすめ 実践の手引き」の効果的活用	町作成のリーフレット「はじめよう かんたっ子学習～家庭学習のすすめ～」を新1年生に配布した。 全学年で自主学習のモデルとして家庭学習で活用することで、発達段階に応じた家庭学習時間の定着や学習内容の質の向上に繋げることができた。 今後は、タブレット端末を活用した家庭学習の充実のための取組が必要である。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 有効性	継続	家庭の教育力向上のために、家庭学習の手引きを作成し、配布するなど積極的に取り組んでいる。今後、タブレットを使った家庭学習の取組の必要性について述べておられる。来年度からの取組に期待したい。
		② 地域企業・大学・高校との連携	コロナ禍のため例年通りの外部講師の招聘は難しい面があり、例年実施してきた地域企業と連携した学習や見学、職業体験などは中止となったものもあった。 しかし、地域企業と連携し、DVDで資料提供を受けたり、規模の縮小やICTを活用したオンラインで体験授業を行ったりすることができた。 また、小中学校のICTを活用した授業を町内高校の教員が参観する等、連携の基盤をつくることができた。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 有効性	継続	昨年度の自己評価で「地域企業・大学・高校との連携は、ICT教育の面で重点化する計画である。」と言われていたが、宣言どおり、本年度は着々と進め、連携の基盤を作っておられることを高く評価する。これからも、有益な取組になるよう推進してほしい。

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性	
4 学校・家庭・地域の連携と協働	(2) 学校・家庭・地域の連携による安心安全の確保	① 校区パトロールや声かけ運動の実施	児童生徒の下校時間に合わせて指導主事による青色防犯パトロールを実施し、児童生徒の安全確保を行った。また、PTAや学警連、町民会議の協力のもと、計画的な街頭補導・声かけも行った。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 → 有効性	継続	今年も校区パトロールや声かけ運動を行っていただき、子どもの安全が確保できている。教育委員会事務局として、年度を通して町内の声かけ事案等発生状況を的確に把握し、収集された情報を活かして、今後も予防的・機動的なパトロールを継続していただきたい。
		② 緊急時のための集団下校訓練や防災訓練の実施	密を避けるため、学校によっては全校一斉の防災訓練の実施は難しかったが、分散型による訓練など工夫して実施することができた。災害時に自主的に考え、行動できることを重視した訓練を通して自律的な行動を促す防災教育が実施できた。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 → 有効性	継続	「密」回避という制約下で、工夫して訓練が実行された。災害時に自主的に考え、行動できることを重視した防災訓練が行われていることを高く評価したい。これからの時代に対応した防災教育である。
		③ 家庭の経済的な負担軽減	新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化や経済状況を鑑み、子育て世代の経済的負担軽減のため、町立小中学校へ通う児童生徒の給食費徴収を12月分から3月分まで免除した。 また、継続して就学援助制度や特学奨励費制度を実施し、義務教育の円滑な実施を図った。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 → 有効性	継続	世情および町民生活の実態に即し、教育機会提供の実質的保障を多角的に進めている。前年度に比し、項目名称の改訂、「有効性」認識の上昇(3→4)にもあらわれるように、保護者・町民目線に立った行政を4年度は一層強く自覚しており、信頼がおける。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後もまだ経済的に厳しい状況は続くと思われるので、引き続き支援していただきたい。

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
4 学校・家庭・地域の連携と協働	(3) 教育のまちづくりの推進	① 特色ある教育活動の充実と公開	総合的な学習の時間を活用したかんだっ子学習の中で、各学校で特色ある取組を行った。コロナ禍で公表の場が少なかったが、与原小学校では御所山古墳について調べたことを古墳周辺で、南原小学校ではSDGsの取り組み、馬場小学校では環境への取り組みを町の広報誌で、町民に向けて情報発信することができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	荻田町の「特色ある教育活動」である「かんだっ子学習」が、コロナ禍を経て復活してきたのは嬉しいことである。各学校が長年「特色ある教育活動」としてきた内容が受け継がれている。公表・発信の場を設けたことも高く評価したい。
		4																													
	3				○																										
	2																														
1																															
	1	2	3	4																											
② コミュニティ・スクールの実施	令和4年度は与原小学校と馬場小学校でコミュニティ・スクールがスタートした。既存の地域会議を活用し、年間3回の学校運営協議会を開催することができた。全学校の学校評議員や学校関係者に向けた研修会を8月に開催し、コミュニティ・スクールの目的や仕組みについて周知を図ることができた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	コミュニティ・スクールがスタートした二校は年間三回の学校運営協議会を開催し着実に進んでいる。またコミュニティ・スクールの目的や仕組みについて町内全学校の評議員や学校関係者に研修会を開いて周知している。今後立ち上がる予定の学校に対する準備的取り組みが並行して確実に遂行されている。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
(4) 地域の伝統文化体験の充実とふるさと文化理解	① かんだっ子学習への地域人材の活用(荻田山笠・等覚寺松会の伝承等)	荻田山笠や等覚寺の松会、天神神楽について、地域の方の指導により学習する機会を設けることができた。荻田ガイドの会やまちの歴史担当と連携した体験学習も実施できた。今後はオンラインによる伝承体験なども工夫する必要がある。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2		○			1						1	2	3	4	継続	今年度は荻田町の伝統文化体験とふるさと文化理解がコロナ禍以前の状態まで復活し、地域の方からの指導や荻田ガイドの会、まちの歴史担当の連携による体験学習が行われた。伝承に向けた新たな取組になったように感じる。	
	4																														
3																															
2		○																													
1																															
	1	2	3	4																											
② 携帯電話やメールの危険性についての啓発活動	全学校で外部講師を招聘し、規範意識を育成するための規模を縮小した講演会を開催することができた。講演会は児童生徒と保護者が共に学ぶ場とし、SNSトラブルの避け方や情報モラル、インターネットやゲームとの付き合い方等、家庭への啓発もあわせて行った。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	児童生徒およびご家族の生命・身体・財産にかかわる大切な学習であり、ご家族との共同学習形態も相まって、意義深い取り組みである。継続をお願いしたい。		
4																															
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性	
5 多様性を踏まえた教育の実践	(1) 特別支援教育の推進	① 荏田町特別支援教育推進連携システムの活用	児童生徒の実態や教育ニーズなどの総合的な把握のため、チーム学校として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、指導主事、その他関係機関との連携を強化した。その中で、情報共有を行い、各学校でのケース会議の支援に繋がるような取組を進めた。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 有効性	拡充	連携システムを必要に応じて適切・円滑に機能させるため、教育委員会としての積極的役割を果たすことに努めた。効果的な支援に繋がっている。
		② 心と体の発達教育相談の充実	指導主事を中心に町の子育て健康課と連携し、町内の全幼稚園・保育所を対象にしたすくすく巡回相談を行った。カンファレンスを通して保・幼・小の情報共有ができ、小学校就学時健康診断時での教育相談の充実に繋がっている。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 有効性	継続	すくすく巡回相談は、就学時の子どもの発達に不安を抱えている保護者にとって心強い取組である。今後も発展しながら継続してほしい。
		③ 学校生活支援員の配置	合理的配慮を必要とする児童生徒のため、令和3年度より4名増員し、荏田小5名、馬場小5名、南原小5名、与原小5名、片島小1名、白川小1名、荏田中3名、新津中2名、計27名を配置し、個に応じた支援や見守りを充実させた。年度当初の配置にあたり、4月に特別支援教育についての研修会を実施した。	達成度 4 3 2 1 1 2 3 4 有効性	拡充	支援員を4名増員し、支援体制を充実させ、1人ひとりのニーズに応じた指導や支援を充実させている。合理的配慮を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、個に応じた支援を充実させるための学校生活支援員の適切な配置に感謝する。27人という規模になると、ケースに応じていろいろな課題も出てくるのではないかと考えられるので、今後、活動の安定化や質の向上に努めていただきたい。

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
5 多様性を踏まえた教育の実践	(2) いじめ・不登校への対応	① 教育相談システム確立のためのチーム作り	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談担当の指導主事、教育支援センター指導員が連携して綿密に情報共有をし、いじめ・不登校の早期発見・解決に向けた取組を行った。コロナ禍のため十分な家庭訪問等ができなかったことが課題であった。	達成度 ↑<table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2			○		1						1	2	3	4	拡充	喫緊の課題であるいじめ・不登校への対応は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、町の担当指導主事等が連携して早期発見・早期解決に向けて取り組んでいる。引き続き適切なコーディネートをお願いしたい。
		4																													
		3																													
2			○																												
1																															
	1	2	3	4																											
② スクールソーシャルワーカーの配置	各学校の要請に応じて、町雇用のスクールソーシャルワーカー1名を派遣し、学校や家庭と連携しながら課題対応を行った。対応児童生徒数は、小学生67人、中学生39人、高校生2人。コロナ禍のために対面による支援が出来にくい状況であった。	達成度 ↑<table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	町雇用のスクールソーシャルワーカーは、週2回の町内勤務で100名超の児童生徒のケースに対応しており、令和4年度までの傾向を見ると、今後さらにケースが増加することも十分考えられる。スクールソーシャルワーカー対応児童生徒数の増加はその存在と役割が教職員や家庭に周知してきた結果と考える。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 教育支援センターの体制整備	教育支援センター(すみれ教室)を三原文化会館に設置し、不登校児童生徒の学校復帰を目指し、学校や指導主事、関係機関との連携を図りながら来室者の適切な支援を行った。入室者8名のうち高校進学が3名、学校復帰は3名であった。	達成度 ↑<table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	困難を抱えた多様なケースに適切に対応する態勢を整え、効果的な支援を行っている。また、不登校児童生徒の学校復帰を目指した支援体制が充実してきているように感じる。高校進学者3名がすみれ教室に入室しているのはその現れではないか。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
5 多様性を踏まえた教育の実践	(3) 国際理解教育の推進	① 帰国・外国人児童生徒への日本語指導体制の整備	福岡県教育委員会の日本語指導体制整備事業を受け、町内の巡回指導での体制整備を行った。2名の指導員を雇用し、帰国・外国人児童生徒(苅田小3名、馬場小2名、南原小2名、与原小5名、片島小1名、苅田中1名)への個に応じた取り出し、入り込みでの日本語指導を行った。日本語指導が必要な児童生徒は、昨年度より大きく増加しており、今後も転入者の増加が見込まれるため、指導員の増員が必要である。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	当該児童生徒との対面指導が必要なジャンルであるから、2名による巡回指導形式でのべ11人に対してよく対応していたと考えるが、その分指導時間数(回数)は少なくなっていたはずである。言葉や習慣の学習であるから指導支援の時間数(回数)を十分確保しなければ、望ましい効果は期待できない。ぜひ増員していただきたい。
		4																													
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
		② 苅田町多文化共生事業との連携	苅田町に居住する外国人(留学生も含む)の増加に伴い、国際理解教育を推進するために、町の事業と連携しながら交流活動などを充実させる必要がある。本年度はコロナ禍のため、西日本工業大学の留学生との交流活動は未実施、アジア太平洋子ども会議への参加も実施できなかった。新しい試みとして外国人保護者のための入学説明会を開催することはできた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2			○		1						1	2	3	4	継続	交流活動が実施できない中、外国人保護者のための入学説明会を新たに実施していただき、安心して子どもを就学させることができたと考える。
4																															
3																															
2			○																												
1																															
	1	2	3	4																											

1-2 生涯学習の充実と文化の振興 (生涯学習課)

目指す姿 子どもから高齢者までが、生涯を通じて学習し、芸術・文化やスポーツ活動に取り組んでいます。

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 学習機会の充実	(1) 年代や目的に応じた講座・教室の開催	① 高齢者分野の講座・教室の開催	シニアセミナーや健康体操、スマホの使い方の基礎など生活に役立つ教養などの講座を開催した。(令和4年度 44回、621人)(令和3年度 36回、446人)健康体操などの講座も人気はあるが男性の参加者が少ない傾向があった。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	スマホに不慣れな高齢者が多い中、その使い方を教える講座を開設したことはとても評価できる。今後も受講者に寄り添った講座を開設してほしい。
		4																													
		3				○																									
		2																													
	1																														
	1	2	3	4																											
② 成人分野の講座・教室の開催	趣味教養を中心とした講座を開催した。(令和4年度 101回、1,114人)(令和3年度 76回、905人)スマホ講座は募集をしてすぐに定員になるなど人気があった。また、生理収納術講座を開催し、家庭で不要となった食器などを公民館でリユースしている。また、バイオマス発電所の見学などSDGsに関連した講座を開催した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	町民のニーズに応える観点と、実践啓発的観点から講座を開設し、受講者の増加を得ていることは評価できる。講座のバランスや妥当性を熟考して開設していることがよくわかる。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 女性分野の講座・教室の開催	小波瀬C.C.では女性セミナーとして連続講座を実施した。また、体のケアに関する講座など、女性だけの方が参加しやすい講座などを女性を開催した。(令和4年度 25回、210人)(令和3年度 14回、134人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	女性を対象とした講座・教室は昨年度と比較すると回数が10回以上増えている。参加者数も大幅に増えている。対象やニーズを絞った講座は人気が高いことが分かる。企画の内容等は、町民へのサービス精神が高い。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
④ 青少年分野の講座・教室の開催	夏休みに子どもや親子を対象に習字、陶芸、工作体験などの講座を開催した。北公民館でのスナメリ調査隊は館外研修として、船に乗り実際にスナメリを見学しながら生態を学習するなど、貴重な体験となった。(令和4年度 19回、206人)(令和3年度 13回、124人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	昨年度と比較すると参加数が大幅に伸びている。普段学校では取り扱わないジャンルも含めて、子ども・親子向け講座を意欲的に開設している。例示されているような荻田の沖合にも棲息しているのになかなか日頃は出会えない野生生物の生態観察は、港町荻田ならではの体験学習である。子どもたちの知的好奇心を高めたと考える。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 学習機会の充実	(1) 年代や目的に応じた講座・教室の開催	⑤ 子育て・家庭教育分野の講座・教室の開催	家庭教育学級は3校での開催となった。中央公民館では子育て中の母親を対象とした講座を子育て支援のボランティアグループと連携して積極的に行い、今まで公民館に来ることが少なかった子育て層の参加者が増加した。(令和4年度25回、285人)(令和3年度3回、66人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	子育て支援ボランティアグループと連携した講座は住民の目線に立った講座であったので、これまで公民館に来ることが少なかった子育て層の参加を促したと考える。また、日頃から町内ボランティア団体の性格を把握しておくという基礎作業があつてこそその取り組みの成功である。
		4																													
	3				○																										
	2																														
1																															
	1	2	3	4																											
⑥ 人権・男女共同参画学習の推進	各公民館において、7月に人権教育講座を開催した。人権講座の中に防災の要素を入れ込むなど参加者が増えるような企画をした。4館合同人権研修では、認知症講座を開催し、録画をして動画配信を試みたが、実現できなかった。(令和4年度 5回、150人)(令和3年度 4回、106人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	人権教育講座は人権に関しての町民の意識を高める重要な講座である。そのために、多くの参加者を得るような企画に努めている。また講座を録画して動画配信を試みるなど積極的な試みも行っていることを高く評価する。今年は実現しなかったが、今後、配信が実現するよう期待する。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
(2) 学校、企業や住民等との連携・活用	① 大学・専門学校・企業との連携	大学教授を講師としてSDGsに関連した講座を開催した。(令和4年度1回、23人)(令和3年度2回、64人)専門学校・企業の社員を講師として、スマホ講座や防災講座などを開催した。スマホ講座は高齢者に人気の講座で需要が高い講座となった。(令和4年度 21回、237人)(令和3年度 4回、72人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	町民の生活改善意識に沿う内容の講座に、各界の専門家を上手く手配できている。社会や生活様式の変化のスピードが一層増していくことを考え、今後はこの種の講座をさらに充実させていただきたい。	
	4																														
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
	② 多様な住民等活用	住民登録講師のサークルは高齢化などの原因により5団体減少した。(令和4年度5団体、36人)。(令和3年度10団体、66人) 住民登録講師の公民館講座を開催したが、制度的な運用は現在行っていない。(令和4年度15回、201人)(令和3年度13回、147人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2				○	1						1	2	3	4	継続	住民間の学びあいに深い意義があることは無論だが、住民登録講師というシステムの時代適合性については、何らかの《手直し》をかける時期に来ているのかもしれないので、「刷新」を視野に入れた「継続」姿勢をとることが適切ではないだろうか。	
4																															
3																															
2				○																											
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 学習機会の充実	(3) 住民サイドに立った公民館活動の推進	① 情報提供体制の充実、広報	年間計画のほかそれぞれ開催の講座について広報誌やホームページ、チラシなどにより募集を行なった。また、令和4年度より荏田町のLINEに情報発信して、ホームページを確認できるようにした。(令和4年度掲載回数14回)(令和3年度掲載回数14回)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	情報発信として新たにLINEを用いたのはスマートフォン時代の今日、効果ある取組であったと考える。情報提供の機会やツールを絶えず検討しており、引き続き、多様な世代に対応した情報提供を行っていただきたい。
		4																													
	3				○																										
	2																														
1																															
	1	2	3	4																											
② 登録自主サークルの情報を積極的に開示	広報誌に自主サークルの一覧を掲載したが、活動の様子などの情報発信はしていないため、今後発信していく工夫が必要である。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2		○			1						1	2	3	4	継続	自主サークルの活動の活性化に繋がるので、今後は活動の様子の情報発信を積極的に配信してほしい。		
4																															
3																															
2		○																													
1																															
	1	2	3	4																											
(4) 公民館まつりの開催	① 公民館まつりの開催	コロナの影響も考慮し、イベントなどは行わず、作品展示のみでの実施となった。2月から3月にかけて公民館講座や自主サークルの作品展示を4館で行い、22サークルが作品を展示した。(9サークルはその他の期間に展示)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2				○	1						1	2	3	4	継続	コロナ感染拡大防止のためにイベントは中止で作品展示のみとなったが、開催していただいたことに感謝する。22サークルが作品展示に参加したことは、住民の積極的なサークル活動の現れであると考え。このことから、人々が集合するイベント形式に限らず、作品展示、動画による発表など、発表スタイルの変革の可能性が見えてきた。あえてイベント化しない方法の有効性について得られた知見を今後に活かしていただきたい。	
4																															
3																															
2				○																											
1																															
	1	2	3	4																											
(5) 公民館貸館	① 公民館各部屋の貸出	各公民館においてホールや目的別部屋(視聴覚室、調理室、音楽室、幼児室、工芸室等)の貸出しを行なっている。コロナの影響も緩和され利用回数、利用人数ともに前年度から大幅に増加した。 (令和4年度 5,300件、49,768人) (令和3年度 3,297件、30,444人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	公民館各部屋の貸出は、今年度、大幅に増加している。住民のニーズが高まっているからだと思う。この機会にその意欲やニーズ、および本事業の妥当性を再確認いただき、今後の支援につなげていただきたい。	
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 学習機会の充実	(6) 自主サークルや各団体が主催するイベント等への支援	① 自主活動の支援	文化協会等、社会教育認定団体に対し、町立文化会館の使用料を半額にし、自主活動を支援した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	自主サークル活動が町立施設の一年間のみ使用料半額減免を受けて活発に活動できている。有効性、達成度ともに4は妥当である。今後、各団体との連絡や案内、情報交換なども視野に入れて、自己評価していただければなおありがたい。
		4				○																									
	3																														
	2																														
1																															
	1	2	3	4																											
② 発表の場の確保	文化協会による文化まつりの支援を行っており、令和4年度は、感染対策を行いながら文化まつりを開催した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2			○		1						1	2	3	4	継続	コロナ禍の中でさまざまな感染対策をとりながら文化まつりを開催しているのは、評価に値する。出演者・演示企画者等の学習者側からすれば、状況に応じた演示展示の微修整、綿密な打ち合わせのプロセスなどにも学習としての意味がある。その意味で、規模を変えてでも開催を支援してもらったことの意味は大きい。		
4																															
3																															
2			○																												
1																															
	1	2	3	4																											
(7) 住民が本物の芸術に触れる機会の充実	① 町民が多様な芸術文化に触れられる機会の充実	町民文化祭はコロナ感染拡大防止のため中止した。 【令和3年度も中止】 また、例年行われているが昨年は中止となった自衛隊による公演「つばさふれあいコンサート」は実施することができた。 【令和3年度は中止】	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2			○		1						1	2	3	4	継続	自衛隊の公演だけでも、町民に芸術文化に触れる機会を継続して提供できたと評価している。	
	4																														
3																															
2			○																												
1																															
	1	2	3	4																											
	② 子ども向けなど、対象を絞った芸術・文化に触れる機会の創出	町民文化祭の中止に伴い実施できなかった。 福岡県市町村振興会による九州交響楽団演奏の「中学生の未来に贈るコンサート」を中央公民館で1回開催した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2			○		1						1	2	3	4	継続	「中学生の未来に送るコンサート」を中央公民館で一回開催できたのはよかったと思う。児童生徒に芸術に触れる機会を設けたことは有意義であった。	
4																															
3																															
2			○																												
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 学習機会の充実	(8) 地域活動指導員の活用	① 体験学習事業の企画・実施・支援	荏田町子ども会育成会連合会が主催の体験学習に地域活動指導員も参加した。また、京築ブロック指導者部会において、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、KYK研修や調理プログラム等を実施した。(サマーキャンプ16人、夜須高原リーダー養成講習会21人、京築ブロック『初級・夏季』ジュニアリーダー研修会 8人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	地域活動指導員は、荏田町子ども会育成会連合会が主催する体験学習に参加したり、京築ブロック指導者部会において、さまざまな体験学習事業の企画・実施・支援を適切に行っている。子どもたちにとって有益な体験ができたとして評価している。
		4																													
	3				○																										
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 子ども会活動の支援	昨年度と同様に、荏田山笠の関係者の協力のもと、山笠格納庫を巡るスタンプラリーを開催した。子ども達にとっては、コロナ禍の運動不足解消になるとともに、郷土について学習する機会ともなった。(参加申込者数384名)また、荏田町の監査指導に基づき、荏田町子ども会育成連合会へ会計処理の方法やスタッフへの費用弁償などについてアドバイスをを行った。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	荏田町子ども会育成会連合会が主催する山笠格納庫を巡るスタンプラリーのイベントを支援し、多くの参加申込を得ている。このように複数の社会教育関係団体が絡む比較的大規模な取り組みに地域活動指導員をあてたり、物心両面からの支援をしてもらうことの意義は大きい。保護者層の一層の安心にもつながる。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
(9) 通学合宿事業の推進	① 通学合宿継続実施者の支援	新型コロナウイルス感染対策のため、宿泊を伴わない「わくわくクッキング教室(食育教室)」を馬場小学校、南原小学校の5～6年生を対象に、中央公民館で開催した。ベトナムの方に講師になってもらい、ベトナム料理にも挑戦した。(4日間述べ参加者53人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	荏田町子ども会育成会連合会は、通学合宿を「宿泊を伴わない形」で継続・発展させている。その事業に対して、地域活動指導員が支援していることを高く評価する。クッキング教室では、昨年を上回る参加者を得ているが、これはベトナム料理など内容、実施方法を工夫した結果であると考えられる。	
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
2 生涯スポーツの推進	(1) スポーツによる健康づくり	① 勤労者・高齢者の健康づくりの一環として各種スポーツ・イベントの実施	■屋内競技 荊田町総合体育館がワクチン接種会場として使用していた。またコロナ感染拡大防止により活動に制限が生じた。そのため、アジャタ大会、スポーツレクリエーション祭は中止した。 ■屋外競技 コロナ感染拡大防止により活動に制限が生じた。そのため、スポーツレクリエーション祭は中止した。年度末にはコロナ感染症が落ち着いたため、ふれあいマラソン大会を開催し、409名の参加があった。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2				○	1						1	2	3	4	継続	各種スポーツイベントはコロナ禍のため中止されていたが、年度末に状況が落ち着いてきたのでふれあいマラソン大会が開催され、409名という多くの参加者があったことは喜ばしいことであった。町民にとって待ちに待ったマラソン大会であったと思う。大変評価している。
		4																													
		3																													
2				○																											
1																															
	1	2	3	4																											
② 総合体育館の利用促進	令和4年度の荊田町総合体育館利用人数は延べ13,883人で前年度と比べて7,407人の増となっている。 コロナワクチン接種会場としてアリーナは1年間使用不可としていた。 【令和3年度6,476人】	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2		○			1						1	2	3	4	継続	総合体育館の本年度の利用人数は昨年度と比べて大幅な増であることから、生涯スポーツの推進に欠かせない施設であることが分かる。また、ウィズコロナが町民に浸透し、町民一人一人が感染防止に努め活動していることが伺える。		
4																															
3																															
2		○																													
1																															
	1	2	3	4																											
③ 荊田町町民温水プールの利用促進	令和4年度の町民温水プール利用人数は延べ54,812人で、コロナ前の平成31年度と比べて8,298人の減となっている。コロナ感染者数の落ち着きに伴ってコロナ前の利用者数に戻りつつある。 【平成31年度63,110人】【令和3年度39,961人】	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3					2		○			1						1	2	3	4	継続	町民温水プールは公認プールであり、水質も非常によく、近隣市町村からの利用者も多い施設である。利用者数は前年度を大きく上回り、コロナ禍以前のニーズの高さを示す数値に近づいているといえる。引き続き安全・安心なプールの環境整備に努めていただきたい。		
4																															
3																															
2		○																													
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
2生涯スポーツの推進	(2)施設の維持管理	①体育館・球場など各スポーツ施設の整備	総合体育館や臨海総合グラウンド等のスポーツ施設も老朽化が進んでいるため、順次整備を行っている。 総合体育館 自動ドア修繕 179,300円 ランプ交換修理 95,160円 馬場多目的グラウンド コンセント改良修理 11,000円 小便器修繕 44,000円 荏田町町民温水プール 1号機、2号機エコキュート修理 709,500円 1号機、2号機エコキュート電動弁取替修理 416,900円 券売機修復作業 348,590円	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	拡充	施設の更新・改修工事によく対応され、利用者の快適な施設利用をもたらしてくれている。 本年度は、総合体育館が改修工事のため長期休館することが予定されているため、利用者が安心して利用できる代替施設をお願いしたい。
	4																														
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
	(3)学校施設の開放	①各地域でのスポーツ推進	町内小中学校の校庭、体育館の一般への開放を行っている。総合体育館の代替としての利用が増加した。 令和4年度は78団体が利用した。 【令和3年度 69団体】	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	利用団体数が R2(56)→R3(69)→R4(78)と漸増しており、ニーズに応えた機会提供・管理がなされていると考える。利用者の増加から小中学校の施設の一般開放が定着してきたことがうかがえる。本年の総合体育館休館時も安心してスポーツ活動ができると考えられる。
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
3 図書館サービスの充実	(1) 図書館サービスの充実	① 利用しやすい環境づくり	祝日開館、春夏秋冬休み期間中の月曜開館、木・金曜日の開館時間延長(午後7時まで)を行った。 (令和4年度末蔵書数 292,873冊) (令和3年度末蔵書数 291402冊)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	祝日開館や開館時間延長などの利用しやすい環境づくりを行い、利用者数の増加を図っている。午後6～7時の延長開館中にも多くの町民が利用している。ただ、利用者側から見ると、「利用しやすい環境」の要因というのは開館日時や蔵書数はもちろんのこと、職員の方の知見や工夫(空間構成、案内表示の位置・高さ・レイアウト等)の方が大きい割合を占める場合もある。今後、そういった側面を評価することも検討していただいてはどうかと考える。
	4				○																										
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
		② 移動図書館の利用促進	保育園・幼稚園・学校等への巡回貸出の充実。コロナ感染拡大の縮小により貸出冊数が増加した。感染対策については引き続き行いながら実施した。 (令和4年度 巡回 9ヶ所、貸出数 9,583冊) (令和3年度 巡回 9ヶ所、貸出数 8,725冊)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	巡回貸出のため移動図書館を実施している。昨年度に比べて貸出数が増加している。コロナ禍で活動が抑制された町民の読書意欲を推進するために、巡回貸出を充実させたことはとても評価できる。
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
3 図書館サービスの充実	(1) 図書館サービスの充実	③ 利用者の拡大及び職員の資質向上	広域利用や秋の読書週間まつり、その他来館を促すイベントの実施により利用者の拡大を図った。感染対策を行いながら新しい生活様式の中でできる範囲で実施した。 また、利用者の拡大や新しい生活様式に対応するため、電子図書サービスを令和3年8月から開始し、充実を図っている。 (令和4年度) おはなし会 年36回(参加者675人) 講座 年3回(参加者25人) 講演会 年1回(参加者29人) 展示会 年9回、公演会 年5回(参加人数221人) シネマ 年17回(参加者87人) ブックリサイクル(558人) (令和3年度) おはなし会 年32回(参加者427人) 講座 年0回(参加者0人) 講演会 年0回(参加者0人) 展示会 年2回、演奏会 年1回(参加人数48人) シネマ 年9回(参加者31人) ブックリサイクル(320人) (令和4年度 年間貸出数 218,691冊) (令和3年度 年間貸出数 191,225冊) (令和4年度 団体貸出 10団体 8,131冊) (令和3年度 団体貸出 8団体 8,489冊) (令和4年度 広域利用貸出 7,535冊、1,371人、登録者数 1,821人) (令和3年度 広域利用貸出 5,578冊、1,041人、登録者数 1,919人) (令和4年度 電子図書サービス利用実績 貸出人数 5,484人 貸出冊数 28,003冊) (令和3年度 電子図書サービス利用実績 貸出人数 1,478人 貸出冊数 28,046冊) 県立図書館主催の研修会等に参加し、資質の向上を図った。 令和4年度 4回(参加者4人) 令和3年度 6回(参加者18人)	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	時代に対応した電子図書サービスの開始など、利用拡大のために意欲的にサービスに取り組んでいる。今年度は利用者が増大している。ニーズに応じてサービスを提供できていると言える。ただし、専門的な図書など、来館者が探している本をすぐ案内できる職員の蔵書への知識等を深める研修を行い、さらに利用しやすい図書館になることを期待する。
					4																										
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
4 文化財の保護と活用	(1) 町内の文化財調査を法令に基づき、適切に調査し、保護・活用をおこなう。	① 国・県・町指定を中心とした文化財の調査と整備	国庫補助金・県費補助金を活用して、国指定史跡御所山古墳の民有地1筆の公有化を行い、史跡隣接地の範囲内容確認調査を2箇所実施した。令和3年8月の豪雨により、国指定重要無形民俗文化財等覚寺の松会を行う場である松庭が崩落したため、令和4年度の応急的な復旧に引き続き、令和5年度は恒久的な復旧工事を完了した。その被災対応について、令和5年3月に東京文化財研究所における『令和4年度文化財防災センターシンポジウム無形文化遺産と防災－被災の経験から考える防災・減災－』(全国自治体職員・研究者ほか約100人参加)において、町職員が「まつりの場の被災対応－等覚寺の松会・松庭の復旧について－」と題した事例報告を行った。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	継続	松会・松庭の被害復旧工事を4年度内に完了させ、そのことを年度内に全国区の文化財防災シンポで素早く報告できているのは、文化財を「保護・活用」(大項目・中項目)するという目的意識が根付いていることの表れといえ、強い職責感が感じられる。
		4				○																									
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
		② 開発に伴う遺跡の調査と報告書作成	民間・公共事業による土木・建築工事等の開発のため、周知の埋蔵文化財包蔵地等において、試掘・確認調査23件を行い、遺跡の記録保存や防災等都市計画に必要な地下情報の蓄積を行った。また、遺跡の記録保存のための緊急発掘調査4件を実施した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	遺跡の記録保存や土木・建築工事等のため、多くの試掘・確認調査を行い、必要な地下情報の蓄積が着実に進められている。また、これらの調査の記録保存が確実に行われていることが質疑応答の過程でわかった。高く評価したい。
4																															
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
4 文化財の保護と活用	(2) 失われゆく町内の文化財や伝統文化の調査・保存をおこない、確実に次世代に継承する。	① 歴史・伝統文化にかかわる文化財の保存・修復	過去の発掘調査における町内遺跡出土品・調査記録の整理・保存を行い、九州国立博物館・九州歴史資料館・行橋市歴史資料館特別展示の計3件79点について苅田町歴史資料館所蔵資料を出陳した。また、九州国立博物館ほかの資料調査や書籍等掲載のため計29件876点の町内文化財写真ほかの資料貸出・掲載許可に対応した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	貴重な文化財の保存・修復を地道に行い保護していることや、町の文化財の史の意義を熟知した整理が常日頃から確実に行われていることが、他施設への出陳・貸出等が大幅に増加していることから分かる。高く評価したい。
		4																													
		3			○																										
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 個人所有が困難となった文化財を歴史資料館において保護・公開	かんだ郷土史研究会と協働し、町内遺跡出土縄文土器等の寄贈品の整理・展示、町の歴史に関係する寄贈古文書の目録作成による公開を行った。また、盗難防止のため、等覚寺の松会に関係する太刀・刀・脇差・掛軸・銅製経筒(県指定有形文化財)や銅造如来形坐像懸仏(町指定有形文化財)計42点を寄託展示・保管した。加えて、九州電力苅田発電所1号機ボイラーに設置された要目表(1954年製)が町に寄贈されたことを記念して、福岡県人づくり・県民生活部文化振興課九州国立博物館・世界遺産室と共催して『世界遺産「明治日本の産業革命遺産」福岡県パネル展』(7月1～30日・見学者102人)を実施し、要目表と苅田町の近代化に関わるパネルも展示した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	関係機関・団体と連携して文化財の必要な保護・公開が適切に行われた。4年度は特に、苅田発電所要目表のような近現代の遺物の保護・公開が進められたとの報告があり、このように対象期が戦後に下ると、町の魅力を《再発見》させるような遺物等が確認される可能性があると考えるので、引き続き適時適切な保護・公開等に努めていただきたい。		
4																															
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 無形民俗文化財の記録保存	新型コロナウイルス感染防止対策のため小規模開催・非公開で実施された国指定重要無形民俗文化財等覚寺の松会の調査・記録保存を行った。東京文化財研究所に分散保管する「等覚寺の松会 映像・写真記録」の活用について、有識者による等覚寺の松会現地指導・協議を継続し実施した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	国指定重要無形民俗文化財等覚寺の松会に関して、有識者による現地指導・協議を継続して実施していることを評価したい。継続したことは、コロナのため中止になっている松会を継承する上で有益であったと考える。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
4 文化財の保護と活用	(3) 文化財情報の発信	① HPや広報を利用した、わかりやすい文化財情報の発信	町内所在の天然記念物・史跡・民俗文化財などの紹介や埋蔵文化財の発掘調査等の速報や文化財を活用した事業の広報等を『広報かんだ』に11件掲載し、HP・FB・LINEを活用し30件の情報発信を行った【令和3年度8件・23件】。加えて、国指定重要無形民俗文化財等覚寺の松会・豊前神楽などの文化財デザインロゴ手ぬぐいを作成し、講座参加者の記念品として無償配布し、また菟田町歴史資料館において販売した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	文化財情報を「広報かんだ」、その他さまざまな発信のツール・機会を活用して、積極的な情報提供が行われている。また、文化財デザインロゴ手ぬぐいの作成・配布、販売をして、町の文化財を分かり易く発信しているのは面白いアイデアであり、文化財の情報発信に力を注いでいることを高く評価したい。
		4																													
	3			○																											
	2																														
1																															
	1	2	3	4																											
② 町内の歴史資源をテーマとした講座・講演会・見学会等の実施	町職員が講師として小学校の学習支援や西日本工業大学「京築学講義」などを実施し11件476名の参加者を得た。かんだ郷土史研究会と協働して、「まちの歴史講座」4件・「まちの歴史講演会」1件を実施し計139名が参加した。特に文化財保護強調週間(11月1～7日)に令和2年9月に国指定史跡石塚山古墳において発生した古墳き損による立入禁止の解除を講座参加者と共に実施した。加えて史跡説明板(行橋法人会寄贈)の再設置を行った。菟田町歴史資料館共催展2件を実施し299名の見学者を得た。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	拡充	町民の各年齢層に合わせて講座や講演等を実施した。また、「まちの歴史講座」に参加型企画を盛り込んだり、町歴史資料館の特別展示を県との共催によって充実させるなど、挑戦的・開拓的姿勢がみられる点は高く評価できる。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
(4) 菟田の歴史・文化・自然・伝統を学び、継承していく場としての歴史資料館や遺跡の整備	① 歴史案内ボランティアの育成	菟田町歴史資料館の総利用者数1228名【令和3年度657人】、土・日・祝日開館のために、かんだ郷土史研究会に一日館長として館内業務を委託した。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	菟田町歴史資料館の利用者数が昨年度に比べると571名増加し、ほぼ倍増している。本項に挙げられている「一日館長」を永らく務めてもらっている「かんだ郷土史研究会」と協力し、前項「まちの歴史講座」受講者層を中心として町の歴史に詳しい町民層の育成・拡大が図られている。	
	4																														
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 地域の文化財整備として周辺住民による遺跡管理の推進	国・県・町指定文化財がある各区の住民による草刈・樹木の伐採を中心とした遺跡管理の委託を行った。また、かんだ郷土史研究会による町内文化財パトロールの委託を行った。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3			○		2					1						1	2	3	4	継続	周辺住民による遺跡管理、かんだ郷土史研究会による文化財パトロール委託の意義は大きく、また、4年度までに長く継承されている貴重な取組とも思うので、従事してくださった当該地域の住民の方々のかんだ郷土史研究会の方々の《思い》《気づき》が、なにか簡単にまとめられるような機会が設けられると後継者育成にも資するのではないかと考える。		
4																															
3			○																												
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

1-3 子ども・子育て支援の充実（生涯学習課）

目指す姿 安心して子育てができる環境が整っています。

評価事業の項目			教育委員会 自己点検・評価			外部評価委員のコメント																									
			事業の成果	達成度・有効性	今後の方向性																										
1 放課後の居場所づくり（児童）	(1) 放課後児童健全育成事業の充実	① 学童保育の待機児童の縮減	待機児童数は5名であったが需要は増加している。令和4年9月より荏田小学校敷地内において放課後児童クラブ増築工事に着手した。 令和5年6月より供用を開始する予定である。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	待機児童の縮減に向けて着々と計画し確実に実行されている。対応の速さと確実さを高く評価したい。待機児童0をめざす力強い姿勢を感じる。
		4				○																									
		3																													
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
② 学童保育の定員数の確保	令和4年4月1日より与原小学敷地内の放課後児童クラブの利用が開始され、定員が114人増加した。町全体で基準（児童1人当たり4.65㎡以上）の定員は464人となった。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4				○	3					2					1						1	2	3	4	拡充	児童クラブの定員の大幅な増加を実現させることに成功している。増加している児童クラブの需要に迅速に対応していることを高く評価する。		
4				○																											
3																															
2																															
1																															
	1	2	3	4																											
③ 放課後子どもひろばに登録して放課後を過ごしている児童の増加	参加児童延べ人数は15,126人で、長期休業日では孤食を避けるために10:00～15:00とした。 土曜日のチャレンジ教室では、SDGsを考える取り組みとしてドルソーレに、ビーチサッカー教室やビーチ清掃の意義についての講演会をしてもらった。また、生き物の生態を守ることを考える機会として、バードウォッチングや海の命の教室をひらいた。	達成度 ↑ <table><tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> → 有効性	4					3				○	2					1						1	2	3	4	継続	放課後子どもひろばに参加している児童数は昨年度に比べて大幅に増加している。長期休業日は午後まで延長して開設している。安全面も含めて大変な業務であろうと推察するが、保護者の要望に応じてよくやっておられると思う。生涯学習課としての関わり方の性格（「健全育成事業」：中項目）を自覚し、学習的要素を盛り込んだ「子どもひろば」の運営に尽力している。		
4																															
3				○																											
2																															
1																															
	1	2	3	4																											

5. 学識経験者意見

令和5年9月20日
荏田町教育委員会外部評価委員会
委員長 井上 宣江
委員 田代 武博
委員 橋内 政和

荏田町教育委員会の「令和5年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価」を見て、まず高く評価したいことは、本町の教育大綱である「第5次荏田町総合計画」（前期基本計画）に示されている施策を着々と確実に実行していることである。私たち外部評価委員は、その施策である「学校教育の充実」と「生涯学習の充実と文化の振興」及び「子ども・子育て支援の充実」の各事業を教育委員会が「点検及び評価」されたものを見て、「成果があった取組み」と「改善や見直しが必要な取組み」について率直な所見を述べ、次年度に向けた改善に資したいと考える。

1 教育委員会の活動状況に関する所見

(1) 荏田町教育委員会会議の運営、公開、首長との連携、教育委員の自己研鑽等について

令和4年度の教育委員会活動について、教育委員会会議の定例会を9回開催したことに加えて、臨時会を1回開催し、教育行政施策や各協議事項に対する議論を行っている。会議の公開は、町掲示板への告示とホームページによる案内が行われており、公開の努力が行われていると言える。首長と教育委員会で構成する総合教育会議においては、荏田町の教育の課題と方向性について協議が実施されている。教育行政の質的向上に向けた教育委員の研鑽は、京築地区教育委員等研修会や福岡県教育委員研修会に参加したり、県や全国の研修会にオンラインで参加したりと充実した取組が行われている。研鑽の成果を教育施策に反映されることを期待したい。

(2) 教育委員会が管理・執行した事務について

荏田町教育大綱である「第5次荏田町総合計画」（前期基本計画：令和3年～7年度）に掲げられた基本方針及び基本事業を推進するにあたって、教育委員会が管理・執行する本年度の荏田町教育施策について審議し、策定を行っている。荏田町教育施策は、教育委員会規則等の整備、法改正や教育施策の内容に応じた条例や予算などの改正・原案の決定、組織の見直し等、柔軟かつ適切な改善が行われている。

2 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務に関する所見

(1) 1-1 学校教育の充実

学校教育に関する事業としては、「1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成」「2 ICT活用教育による学びの質の向上」「3 教育環境の整備」「4 学校・家庭・地域の連携と協働」「5 多様性を踏まえた教育の実践」を評価の項目としている。

以下に成果があった取組みと改善や見直しが必要な取組みについて述べる。

〔成果があった取組み〕

1 確かな学力の向上とたくましい心身の育成

○「学力の向上を目指す授業づくりの推進」

学力向上のために、まず「授業づくり」に焦点をおき、これを推進するに当たって町雇用の教育活動支援員8名を配置したり、片島小学校には複式学級を解消するために2名の町雇用教員を配置したりしたことを高く評価する。これにより、少人数指導・専科指導が可能となり、一人一人に目が行き届く教育と専門性の高い教育を目指すことができる。次に評価したいことは、「学力向上推進プロジェクト会議」を定期的に開催して、各学校のリーダーたちが「授業づくり」を中心とした学力向上策を協議する場を軌道に乗せてきたことである。「授業づくり」こそが、学力向上の基本であることを、このプロジェクト会議で示すことによって荏田町の教育の質を高めている。

○「教師の資質・指導力の向上」

学力向上のためには、「教師の資質・指導力の向上」は不可欠である。そのための取組みとして、「学力向上プランの見直しと改善」「小・中の教員が相互に町内他校の校内研修会に参加する事業」「特定教科研究指定校の継続と研究成果の公表」「キャリアステージに応じた研修」の4点を主に推進している。

まず、「学力向上プランの見直しと改善」については、各学校を訪問してヒアリングを行い、学力向上プランの見直しと改善を進めている。プランが明確であれば、確かな実行が進めやすい。その結果、成果や課題が明確になり、次年度への見直しにつながる。この取組みを学校に訪問して直接指導していることを高く評価する。達成度が3であるが、複数年継続・実施することによって、教師の資質向上につながり、有効性の実感がわき、達成度が上がってくると考える。

次は、「小・中の教員が相互に町内他校の校内研修会に参加する事業」について、昨年度と比べると回数も参加人数も大幅な伸びを示している。しかし、達成度は4であるが、有効性は3と自己評価されている。一方、「特定教科研究指定校」の制度とその「研究成果の公表」は、有効性、達成度ともに最高の4と自己評価されている。この2つの取組みは「公開する」方と「公開される(参加者)」方という関連性があり、教職員の資質向上策として、この2つを有効に関連させたいという意図があると推察するので、発表会参加者の学ぶ意欲を高める取組みが必要になると考える。

次は「キャリアステージに応じた研修」で、若年教員向けやミドルリーダー向けにそれぞれ研修を行い、適切な指導助言を行っている。研修は、教員の指導力向上には欠かせないものであるので大いに実施していただきたいが、働き方改革の面からも、ぜひ参加しやすい体制づくりを構築していただきたい。

○「生きる力の育成」

子どもたちが、変化の激しい社会に主体的に関わり、未知の状況にも自分で考え解決していく力を育てる教育が今強く求められている。そのために、「規範教育」「道德教育」「体育」に力を入れている。中でも道德の授業づくりについては町の研究指定校を中心に町内全体で共有できるようにしている。これにより、現在、新しい教育で求められている「考え、議論する道德」の授業づくりが町内全体で進んでいると考える。また、中学校では生徒会を中心に学校のきまりの見直しが進められ、「規範」について、自分で考え解決していく力を育てる教育が進みつつある。

○「外国語教育の充実」

ますますグローバル化する状況にあって、外国語教育の充実は欠かせない。そのために、低学年・中学年の「外国語活動」と高学年の「外国語科」に町雇用のALTを派遣し、ネイティブの発音に慣れさせている。令和2年度から町雇用の外国語指導助手(ALT)を4名に増員したことは、ネイティブスピーカーに接する機会を増やすという意味で意義深い。2名の小学校英語専科教員の配置も高く評価する。

2 ICT活用教育による学びの質の向上

ICT活用教育は、質の高い学習の実現に資することが期待される。荻田町では、ひとり一台のタブレットを持つ環境整備が進んでいる。ICT担当係を2名配置し、ICTを活用した授業づくりを推進している。その他に、ICT支援員(外部委託)の配置を行い、学校における日常的なサポートを行うことで利活用の推進をしている。ICT教育は今後もますます進展することが想定されているので、人員配置を進めるとともに、ICT機器の利活用については授業の本質に立ち返りながら、学校現場と一体になって、益々よい事例を積み上げていってほしい。

3 教育環境の整備

教育環境の整備として、「安心・安全な学校のための危機管理」「ネット環境の安定的運用」「働き方改革」「校舎修繕改修」を主に推進している。この項目は、教育委員会は素早く対応し、最善の取組をされていると感じる。まず、学校におけるコロナ感染症拡大に適切に対応するガイドラインの見直し、学校の避難訓練等の危機管理マニュアルの見直しなど「安心・安全な学校づくり」に努めている。

次に、一人一台端末の整備に伴うネット環境の安定的運用に努めている。教育活動に支障が出ないように迅速に対応している点を高く評価する。また、「働き方改革の推進」として勤務時間管理ソフトを使用して在校時間の意識化を図っている。これにより、教職員の働き方改革への意識は高まっていると評価する。しかし、まだ多くの課題を抱えている。さらに進めて、《可視化しがたい校務》も視野に入れ、引き続き、実質的勤務時間をめぐる課題解消に努めていただきたい。そのためには、教育委員会がリードすること、学校がやること、地域がやること、家庭がやることを明確にして進める必要がある。最後に、「校舎修繕改修」については、老朽化した施設の整備改修を計画的に行っている。

4 学校・家庭・地域の連携と協働

平成8年に中央教育審議会第一次答申で、「子どもたちの教育は、単に学校だけでなく、学校・家庭・地域社会がそれぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが重要である。」と学校教育の在り方が示されてから、閉鎖的であった学校教育は地域とともにある学校となるように努力してきた。苅田町教育委員会が継続して推進していることは、「校区パトロールや声かけ運動の実施」「かんだっ子学習での地域の人・もの・ことの活用」が特筆すべきことであるが、近年、コミュニティ・スクールの実施が着々と進められている。特に自己評価が高い「校区パトロールや声かけ運動の実施」と「コミュニティ・スクールの実施」について述べる。

○「校区パトロールや声掛け運動の実施」

学校、地域、関係機関が連携し、登下校時等の見守り活動に尽力している。長年継続して活動が行われているということは、地域の方々の協力体制が根付いてきているからであり、地域の方々に感謝するとともに教育委員会の支援について高く評価したい。

○「コミュニティ・スクールの実施に向けた試行」

与原小学校と馬場小学校でコミュニティ・スクールがスタートし、今年度、学校運営協議会を年間3回開催できたことは高く評価できる。また全学校の学校評議員や学校関係者に向けた研修会を開催して目的や仕組みについて周知し、段階的に地域の理解を得ながら全体へと進めている。このことが確実な実施へとつながると考える。コミュニティ・スクールは学校及び地域の活性化につながる有効な取り組みであるので、さらに発展させてほしい。

5 多様性を踏まえた教育の実践

今次改訂の学習指導要領では、一層多様性が高まる社会において、一人一人の違いを尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力を伸ばしていくことが強く求められている。苅田町では「特別支援教育の推進」、「いじめ・不登校への対応」、「国際理解教育の推進」の3つを大きな柱として推進している。そのために、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや専門機関との連携強化、更に学校生活支援員の十分な配置をしている。また、苅田町は外国人が居住する割合は福岡県でも上位にあり、帰国・外国人児童生徒の日本語指導のために2名の指導員を雇用している。今後も増員していく必要があると述べていることを高く評価したい。苅田町では、「多様性を踏まえた教育」について人的配置の整備が進んでいるので、これからは、教科等の指導においても「互いのよさを生かして協働する力」を伸ばしていく指導の在り方について、研修による教育委員会のリードが必要になると考える。

〔改善や見直しが必要な取組み〕

○コミュニティ・スクールの実施

地域とともにある学校への転換を図る有効な仕組みであるコミュニティ・スクールが2校に導入された。地域との協働(共同運営)となると課題が多々あるものとする。導入校での運営状況を検証して、お互いの協働が進むように、整理・腑分けを確実に行っていただきたい。

○「働き方改革」

タイムカードによる管理が定着したことが教員の仕事量削減・「働き方改革」に一定程度好影響をもたらしてきたことは評価できる。今後《可視化しがたい校務》も視野に入れ、引き続き、実質的勤務時間をめぐる課題解消に努めていただきたい。

○学校生活支援員の適切な配置

合理的配慮を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、個に応じた支援を充実させるための学校生活支援員の適切な配置に感謝する。支援員を4名増員し、27人という規模になるとケースに応じていろいろな課題も出ているのではないかと考えられるので、活動の質の向上に努めていただきたい。

○日本語指導員の雇用

当該児童生徒との対面指導が必要なジャンルであるから、2名による巡回指導形式で延べ11人に対してよく対応していたと考えるが、その分指導時間数(回数)は少なくなっていたはずである。言葉や習慣の学習であるから、指導支援の時間数(回数)を十分確保しなければ、望ましい効果は期待できない。ぜひ増員していただきたい。

(2) 1-2 生涯学習の充実と文化の振興

令和4年度は、スポーツ活動、芸術・文化活動をはじめとして、子どもから大人まで、自分に適したものを選んで学習する機会を提供する生涯学習の本来の姿が戻って来つつある一年間であった。年度末に復活したマラソン大会をはじめ、その他の学習機会は内容が充実していた。以下に成果があった取組みと改善や見直しが必要な取組みについて所見を述べる。

〔成果があった取組み〕

1 学習機会の充実

- 高齢者分野、成人分野、女性分野、青少年分野、子育て・家庭教育分野それぞれに学習機会が充実していた。健康体操、時代の要請に合致したスマホ教室、整理収納術、SDGsに関連した講座、夏休みの子どもや親子対象の館外研修及び生態学習など多種多様な講座を開設している。対象やニーズを絞り、内容が新鮮で興味深いものが多い。これらの講座への参加案内は、定期的に苅田町の広報で行っている。住民へのサービスが充実していると考え。LINEによる講座案内もあり、更に分かり易くなってきた。
- 公民館各部屋の貸出は住民の学ぶ場所が確保できて有効である。今年度は大幅に増加している。本来の姿が戻ってきた。自主サークル活動は、発足して一年間のみ使用料半額減免を受けて活発に活動できている。
また、今年度はコロナの感染防止対策をとりながら文化まつりを開催している。住民の発表の場を確保することになるとともに、内容も充実していたと考える。
- 地域活動指導員は、苅田町子ども会育成会連合会が主催する体験学習事業の企画・実施・支援を行い、子どもたちの自立を育む体験学習の発展に貢献している。今後も大いに期待している。

2 生涯スポーツの推進

- 年度末にコロナ感染状況が落ち着いてきたのでふれあいマラソン大会が開催され、多くの参加者があったことは喜ばしいことであった。
- 総合体育館は町民の健康づくりには欠かせない施設である。本年度の利用人数は昨年度と比べて大幅な増であることから、生涯スポーツの推進に欠かせない施設であることが分かる。
- 町民温水プールは公認プールであり、近隣市町村からの利用者も多い施設である。水質も非常によく、町の適切な施設管理に感謝する。
- 生涯スポーツ施設の更新・改修工事によく対応され、利用者の快適な施設利用をもたらしてくれている。
- 町内の小中学校の体育館を開放し、「総合体育館の代替」として利用を促している。町民のスポーツの場として大いに貢献している。

3 図書館サービスの充実

○「利用しやすい環境づくり」

祝日開館や開館時間延長、電子図書サービスの開始など、利用しやすい環境づくりを行い、利用者数の増加を図っている。午後6～7時の延長開館中にも多くの町民が利用している。ただ、利用者側から見ると、「利用しやすい環境」の要因というのは開館日時や蔵書数はもちろんのこと、職員の方の知見や工夫（空間構成、案内表示の位置・高さ・レイアウト等）の方が大きい割合を占める場合もある。専門的な図書など、来館者が探している本をすぐ案内できる職員の蔵書への知識等を深める研修を行い、さらに利用しやすい図書館になることを期待する。

4 文化財の保護と活用

○「史上の意義を熟知した町内遺跡出土品、調査記録・資料の整備」

遺跡の記録保存や土木・建築工事等ため、多くの試掘・確認調査を行い、必要な地下情報の蓄積が着実に進められている。町内遺跡出土品、調査記録・資料の史上の意義を熟知した整理が常日頃から確実に行われていることが、九州の主な博物館、歴史資料館に出陳している数が大幅に増えていることから分かる。高く評価したい。

○「町内文化財の価値の積極的公開」

九州国立博物館などへの町内文化財写真や資料の貸出、書籍への掲載許可に対応するなど町内の文化財の価値を広く伝えている。また、県の文化振興課と共催して実施したパネル展で、荇田町の近代化に関わるパネル展示等を行い、町の歴史について公開している。

次に、国指定重要無形民俗文化財等覚寺の松会に関して有識者による現地指導・協議を継続して実施している。等覚寺の被災対応については、全国的な場で事例報告をする等、専門的で役に立つ活動が行われていることに敬意を表する。

○「さまざまな発信のツール・機会を活用した積極的な情報提供」

かんだ郷土史研究会との協働による文化財の整理・展示・公開、盗難防止のための寄託展示・保管などが遂行され、文化財情報を「広報かんだ」、その他さまざまな発信のツール・機会を活用して、積極的に情報提供が行われている。

○「講座や講演等の実施」

町民の各年齢層に合わせて講座や講演等を実施した。参加型企画を盛り込んだり、町歴史資料館の展示を県との共催によって充実させたりするなど、挑戦的・開拓的姿勢がみられる点を高く評価する。荻田町歴史資料館の利用者数が昨年度に比べるとほぼ倍増している。周辺住民による遺跡管理、かんだ郷土史研究会による文化財パトロール委託の意義は大きく、長く継承されている取組みなので、地域住民の方やかんだ郷土史研究会の方々の《思い》《気づき》を簡単にまとめられるような機会があれば、後継者育成にも資するのではないかと考える。

〔改善や見直しが必要な取組み〕

○人権教育講座の動画配信の実現に向けて

人権教育講座は人権に関する町民の意識を高める重要な講座である。そのために、多くの参加者を得るような企画に努めている。計画では講座を録画して動画配信を試みるなど、積極的な試みも行っていることを高く評価する。今年の実現しなかったが、配信が実現するよう期待する。

○新しい考え方で継続したい「住民登録講師」

住民間の学び合いに深い意義があることは無論だが、住民登録講師というシステムの時代適合性については、何らかの《手直し》をかける時期に来ているのかもしれないので、「刷新」を視野に入れた「継続」姿勢をとることが適切ではないだろうか。

○蔵書に関する幅広い知識の必要性

祝日開館や開館時間延長、電子図書サービスなどの利用しやすい環境づくりを行い、利用者数の増加を図っている。ただ、利用者側から見ると、「利用しやすい環境」の要因というのは開館日時や蔵書数はもちろんのこと、職員の方の蔵書に関する知見や書架の工夫、案内表示の仕方の方が大きい割合を占める場合もある。多忙な業務とは思いますが、その点について、レベルアップを期待したい。

○周辺住民による遺跡管理、かんだ郷土史研究会による文化財パトロールの後継者育成

周辺住民による遺跡管理、かんだ郷土史研究会による文化財パトロール委託の意義は大きく、長く継承されている取組みなので、当該地域の住民の方やかんだ郷土史研究会の方々の《思い》《気づき》がまとめられるような機会があると後継者育成にも資するのではないかと考える。

(3) 1-3 子ども・子育て支援の充実

学童保育の需要は増加する中、待機児童の縮減に向けて早急に実行に移していることを高く評価したい。

〔成果があった取組み〕

1 放課後児童健全育成事業の充実

○「学童保育の待機児童の縮減」

令和4年4月1日からスタートした与原小学校敷地内の放課後児童クラブにより、学童保育の定員の大幅な増加を実現させることに成功している。増加している学童保育の需要に迅速に対応していることを高く評価する。令和5年6月から開始する予定の荏田小学校敷地内の放課後児童クラブの増築工事に向けて着々と計画し、確実に実行されている。対応の速さと確実さを高く評価したい。待機児童0をめざす力強い姿勢を感じる。

○「放課後子どもひろばに登録している児童数増加」

放課後子どもひろばに参加している児童数は昨年度に比べて大幅に増加している。長期休業日は午後まで延長して開設している。安全面も含めて大変な業務であろうと推察するが、保護者の要望に応じてよくやっておられると思う。また、生涯学習課としての関わり方の性格（「健全育成事業」：中項目）を自覚し、学習的要素を盛り込んだ「子どもひろば」の運営に尽力している。

〔改善や見直しが必要な取組み〕

待機児童0をめざす力強い姿勢を感じ、改善や見直しが必要な点は見当たらない。

6. 資料等

○関係法令 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（事務の委任等）

第二十五条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

- 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
- 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。
- 六 第二十七条及び第二十九条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第一項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。

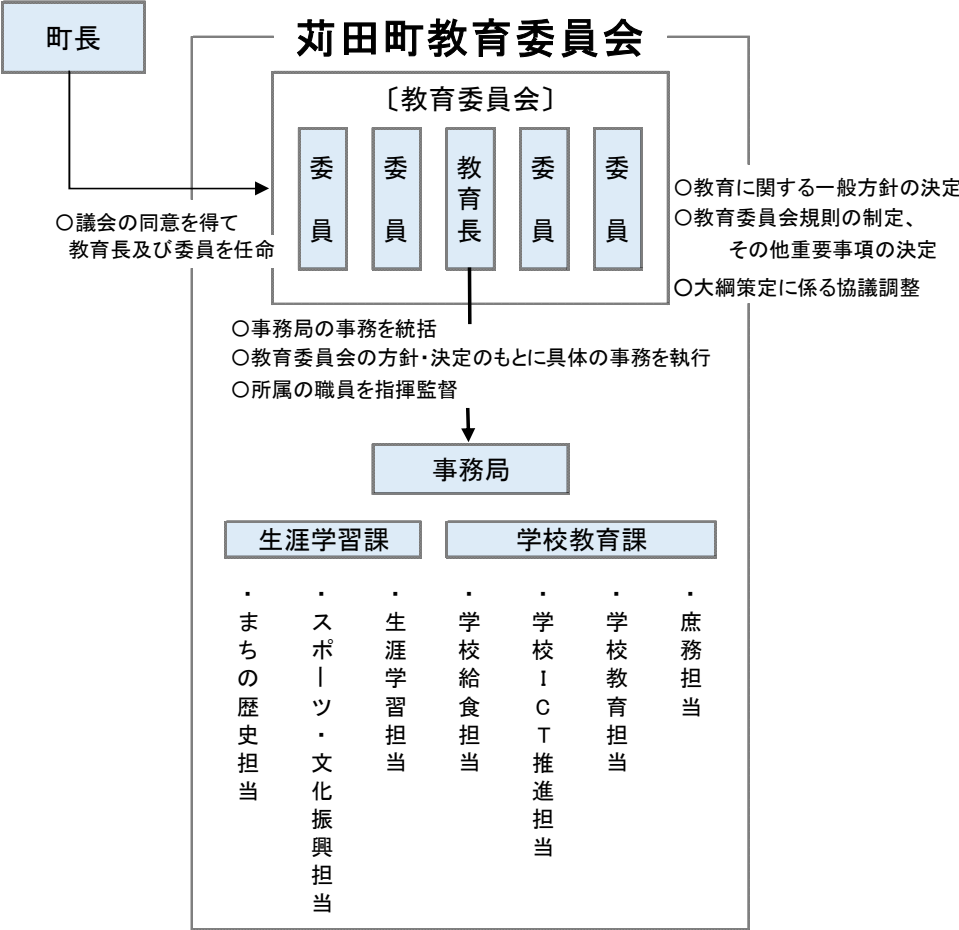
4 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○荏田町教育行政の仕組み



○町教育施設等

[学校施設]

学校名	所在地	児童・生徒数 (R5.5.1現在)
荏田小学校	荏田町神田町2丁目9-12	647
馬場小学校	荏田町大字馬場558	387
南原小学校	荏田町富久町1丁目4-9	341
与原小学校	荏田町与原3丁目7-5	695
片島小学校	荏田町大字上片島1504	41
白川小学校	荏田町大字稲光357	72
荏田中学校	荏田町大字提2975-1	574
新津中学校	荏田町新津1丁目6-1	443
学校給食センター	荏田町磯浜町2丁目2-9	—
教育支援センター (すみれ教室)	荏田町富久町1丁目19-1	—

[生涯学習施設]

施設名	所在地
町立図書館	荏田町富久町1-17-8
三原文化会館	荏田町富久町1丁目19-1
歴史資料館	荏田町富久町1丁目19-1
中央公民館	荏田町京町2丁目5番地
北公民館	荏田町若久町1丁目3-7
小波瀬コミュニティセンター	荏田町新津1丁目10-1
西部公民館	荏田町大字鋤崎481-1
総合体育館	荏田町殿川町1-30
臨海総合グラウンド	荏田町長浜町46
町民温水プール(スイマー)	荏田町殿川町1-160